

あなたは「まなびの凝り」を感じませんか？
こうあるべき、という思い込みはありませんか？
あなたの思う「当たり前」は本当にそうなのか？
何かうまくいかないと感じる理由のどこかに
「こり」があるのでは？
まなびの凝りを一緒に「まなびほぐす」、そんな
シリーズをつくりました。
自分を常に進化させる術、「まなびほぐし」の
方法や視座をみつける場です。

音楽を“まなびほぐす”

教育プログラムをめぐるワークショップ/レクチャー

◎お問い合わせ
上野学園大学音楽文化研究センター
〒110-8642 東京都台東区東上野4-24-12
電話 03-3842-1021[代表]
FAX 03-3843-7548
Email onbunken@uenogakuen.ac.jp
HP www.uenogakuen.ac.jp
主催: 上野学園大学音楽文化研究センター
後援: 台東区、台東区教育委員会、認定NPO法人芸術資源開発機構、公益社団法人
日本オーケストラ連盟、一般社団法人日本クラシック音楽事業協会、特定非営利
活動法人ワークショップデザイナー推進機構、文化庁在外研修員の会[各申請中]
協力: 東京文化会館、ミュゼザ川崎シンフォニーホール/横浜みなとみらいホール[11/5のみ]
助成: 平成27年度文化庁大学を活用した文化芸術推進事業

◎「まなびほぐし unlearn」とは:
"これまでの「まなび」を通して身につけてしまっている「型」
としての「まなびの身体技法[まなび方]」について、それをあ
らためて問い直し、「解体」して、組み替えることを意味して
いる。ワークショップは、「型こわし」と「型さがし」を経験す
る、まさに「まなびほぐし」の場なのである。”
苧宿俊文、佐伯胖、高木光太郎「ワークショップと学び1 まなび
を学ぶ」[東京大学出版 2012]より

音楽を“まなびほぐす” ——教育プログラムをめぐる ワークショップ/レクチャー

【企画の意図】

上野学園大学は2009年から「音楽ワークショップ・ファシリテーター養成講座」を中軸として、ファシリテーターの人材育成に積極的に取り組んできました。東京オリンピック・パラリンピックまで、あと5年——クラシック音楽やアートに携わる人に大きな期待が寄せられています。ワークショップやアウトリーチ活動の企画・実践者は、芸術文化の作り手と受け手をつなぐ役割を担うだけでなく、地域社会とそれを支えるリソースとの連携・接続を図る人材として、活動の場が広がっています。

このシリーズは、クラシック音楽のワークショップやアウトリーチを実践する演奏家、ファシリテーター、コーディネーターの養成を目指すと共に、すでに活動している様々な実践者の皆様に「まなびほぐし」の場を提供することを目的としています。また、他のアート分野からの実践的な知見や手法、方法論を学ぶと同時に、同じ志を持つ方々の出会いの場として、これからの豊かな文化芸術社会の発展を支えるネットワーク形成の場をご用意します。

【実施の概要】

すべてのレクチャーとワークショップを、対話ベースの相互学習スタイルで行い、具体的な体験の「ふりかえり」を必ず加えています。プログラムは次の3つの視点から構成されています。
※それぞれのワークショップとレクチャーについて●■★印が分類を表します。

●グランドデザインを考える：社会と芸術の接点を体現しよう

■T型人材を目指す：音楽ワークショップ、アウトリーチに関わる専門分野を知ろう

★現場の最前線：今、起きていることを見つめよう

夏	<p>●ワークショップ① 2015年7月25日[土]—28日[火] ファシリテーター養成講座 基礎編 第4期 マイケル・スペンサー[上野学園大学客員教授] 2009年から続く養成講座を今年も開催いたします。プロのヴァイオリニストが20年をかけて練り上げたファシリテーションや芸術を横断的に学習するワークショップの手法を学びます。 会場：上野学園 石橋メモリアルホール 定員：30名 対象：原則として、18歳以上の音楽ファシリテーターのスキルを学びたい方。</p>
	<p>■レクチャー① 2015年7月25日[土]13:30—15:30 学校音楽とファシリテーションの出会い 瀧川 淳[上野学園大学専任講師] 学校教育の中の「音楽」の視点から、どんなワークショップを学校の先生は魅力的に感じ、授業で活用されるのか、現場の先生をゲストに迎えて話し合います。 会場：上野学園 石橋メモリアルホール 定員：30名 対象：音楽ワークショップの学校での実践に関心のある方。</p>
	<p>■レクチャー② 2015年7月26日[日]10:00—12:30 教育学から見た音楽ワークショップの位置づけ 苅宿俊文[青山学院大学社会情報学部教授] ワークショップを学習として捉えることが、今、当たり前のように言われています。しかし、私たちは学習というものをどのように考えてきたのでしょうか。行動主義、認知主義、社会構成主義、この3つの学習観の変遷とワークショップの中で起こる即興性や身体性を通じた「気づき」などについて、簡単なワークを交えてご紹介します。 会場：上野学園 石橋メモリアルホール 定員：30名 対象：学習としてのワークショップ、音楽ワークショップの社会的背景やニーズに関心のある方。</p>
	<p>●ワークショップ② 2015年8月20日[木]—23日[日] ファシリテーター養成講座 実践編 第2期 マイケル・スペンサー[上野学園大学客員教授] 会場：上野学園 石橋メモリアルホール 定員：30名 対象：原則として、18歳以上の音楽ファシリテーターのスキルを学びたい方。基礎編を修了された方。</p>
	<p>●ワークショップ③ 2015年8月20日[木] からだからダンスの種を見つける—音と動きは双子のきょうだい!?— 新井英夫[ダンサー] 「ほぐす、つながる、かながえる」をテーマに、身体性・即興性・自己原因性・協働性を体感しつつ、バリアフリーなワークショップをデザインする手法を学びます。 会場：上野学園 石橋メモリアルホール 定員：30名 対象：身体を使ったワークショップにご興味のある方。</p>
秋	<p>★レクチャー③ 2015年11月5日[木]18:30—21:00 人を育てるアートプロジェクトを仕掛ける—エクサン＝プロヴァンス音楽祭の事例からベルナール・フォクルール[エクサン＝プロヴァンス音楽祭監督] 「未来の聴衆ではなく、今、目の前の聴衆を育てること」。 世界有数のエクサン＝プロヴァンス音楽祭の名監督が出演者、観客、地域の人々を巻き込んでつくる「仕掛け」を語ります。今年話題の子供のための新作オペラ《The Monster in the Maze》[ベルリン・フィル、ロンドン響と共同制作]の舞台裏にも迫ります。 会場：上野学園大学オーケストラ・スタジオ 定員：100名 ※9/1申込開始 先着順 対象：教育プログラム実践者[プロデューサー、コーディネーターも含む]、音楽大学生、研究者、アートプロジェクトに関心のある方など。</p>
	<p>■レクチャー④ 2015年11月10日[火]18:30—21:00 音楽療法とワークショップの共通項—音楽を介して心と体に向き合う 中山晶世[上野学園大学短期大学部専任講師] 芸術のワークショップは、ふとしたきっかけで参加者の深層心理やトラウマに立ち入っ</p>

秋	<p>てしまうことがあります。トランス状態から抜けられないことも。そうした事態を避けるために、どのような準備や配慮が必要か、音楽療法のアプローチから考えます。 会場：上野学園大学第2リハーサル室 定員：50名 ※9/1申込開始 先着順 対象：教育プログラム実践者[プロデューサー、コーディネーターも含む]、音楽大学生、アートプロジェクトと音楽療法の融合に関心のある方、アートワークショップやアウトリーチに関心のある福祉施設や医療機関の方など。</p>
	<p>★■ワークショップ④ 2015年12月22日[火]—23日[祝]各日10:00—18:00 心をひらくアウトリーチの作り方—音楽の質と体験をつなぐ 児玉 真[一般財団法人地域創造プロデューサー] 箕口一美[上野学園大学音楽文化研究センター研究員] 加藤未礼[おおきな木代表/生涯学習開発財団認定ワークショップデザイナー] 今野尚美[上野学園大学准教授] アウトリーチの質は、何に表れるのでしょうか。アウトリーチの場の設定はコーディネーターに、プログラム作りはアーティストにお任せ、と思いませんか？アーティスト以外の方はどのように関わられるのでしょうか。アウトリーチ活動を「大きな木」に見立て、その理念、活動、問題を視覚的に掘り下げます。また、現役のベテランと若手演奏家のアウトリーチ実践を体験しながら、具体的なプログラムを考えます。 会場：上野学園大学オーケストラ・スタジオ 定員：20名 ※9/1申込開始 先着順 対象：アウトリーチ実践経験のある演奏家、コーディネーター、プロデューサーなど。</p>
	<p>★ワークショップ⑤ 2016年2月11日[祝]10:00—18:00 クラシック音楽と「私」がつながる回路をつくる—対話型音楽鑑賞の可能性 三ツ木紀英[認定 NPO 法人芸術資源開発機構代表理事] クラシック音楽には新しい聴衆が必要だ、と言いますが、「新しい聴衆」とは誰のこと？ 美術プログラムで定評のある「対話型鑑賞」は、言葉で表現するためによく観察し、自身を作品[対象]に近づける手法です。参加者の感覚や思考に寄り添うファシリテーション方法をクラシック音楽に転用したら、どんな可能性が広がるか—これがテーマです。 会場：上野学園 石橋メモリアルホール 定員：25名 ※12/1申込開始 先着順 対象：音楽ワークショップ、アウトリーチ、教育プログラム実践者[プロデューサー、コーディネーターも含む]、アーティスト、広報担当者など。</p>
	<p>★ワークショップ⑥ 2016年2月27日[土]13:00—18:00、28日[日]11:00—18:00 ファシリテーションにおける即興性を問う—イエスアンドで始めるインプロ入門 絹川友梨[俳優/インプロワークス株式会社代表] コミュニケーションは、「わかりあえないこと」「伝わらないこと」から始まります。綿密に準備したワークショップでも、ファシリテーターは場の流れや参加者の反応に応じて、即座にプログラムを修正し、適切な参加のハードルを再設定しながら、円滑な場づくりを行います。そんなファシリテーションの手法に、日本のインプロ第一人者の絹川氏のワークショップで出会います。 会場：上野学園大学オーケストラ・スタジオ 定員：30名 ※12/1—1/10申込受付。申込多数の場合、抽選。1/15に結果お知らせ。 対象：原則として、ワークショップなどのファシリテーション経験のある方アートを介した活動に興味関心のある方。</p>
冬	<p>●★ワークショップ⑦ 2016年3月5日[土]10:00—18:00 デザインしないワークショップをつくる 吉野さつき[愛知大学文学部メディア芸術専攻准教授] 坂倉杏介[東京都市大学都市生活学部准教授/三田の家LLP代表] よいワークショップに「デザイン」は欠かせません。ではそのデザインとは何でしょうか。ファシリテーションやプログラムデザインだけで、コミュニケーションは引き出せません。人との関わりをゆるい関係性の中で紡ぐ実践の大切さを問い直します。 会場：上野学園大学オーケストラ・スタジオ 定員：30名 ※12/1申込開始 先着順 対象：ワークショップデザイナー、コーディネーター、プロデューサー、ファシリテーターなどワークショップの実践経験がある方。</p>

【受講料】	
ワークショップ①②	一般35,000円/ 学生15,000円
ワークショップ③	3,000円
ワークショップ④⑥	8,000円
ワークショップ⑤⑦	4,000円
レクチャー①—④	1,500円

【チケット】
Peatixにて販売
www.peatix.comより「上野学園大学」でイベント検索。

※駐車場・駐輪場はございません。公共交通機関をご利用ください。
※講師やタイトル等が変更になる場合がございます。

【お問い合わせ先】
上野学園大学音楽文化研究センター[担当：杉山幸代]
〒110-8642 東京都台東区東上野4-24-12
電話03-3842-1021[代表] FAX 03-3843-7548
HP www.uenogakuen.ac.jp
Email onbunken@uenogakuen.ac.jp

【会場までのアクセス】
JR「上野駅」入谷口から徒歩8分
東京メトロ銀座線・日比谷線「上野駅」1番出口から徒歩8分
台東区循環バス東西めぐりん「上野公園[東京文化会館前]」より乗車、「上野学園」徒歩1分[所要時間10分(15分間隔で運行)]



新井英夫 [体奏家/ダンスアーティスト]

自然に学び力を抜く身体メソッド「野口体操」を創始者より学び深い影響を受ける。1987-96年劇団「電気曲馬団」主宰を経て、97年より独学で本格的にダンス活動を開始、国内外での公演や滞在型共同制作も多数。舞台活動との両輪として、乳幼児から高齢者まで障がいの有無に関わらず幅広い対象に向けた身体表現ワークショップを教育・福祉・医療や社会的包摂にまたがる現場で実施している。天理医療大学・国立音楽大学非常勤講師。



加藤未礼 [おおきな木代表/生涯学習開発財団認定ワークショップデザイナー]

障害者福祉施設における、人・もの・場づくりにまつわる課題解決のためのコンサルティングを中心に活動。その中で生まれた「組織を木に見立て課題解決をする」ためのワークショッププログラム「Talk Tree WORKSHOP」を主宰。「誰のための?」「何のための?」活動なのか。その媒介を通して果たしたいモノ・コトは何か。現代社会を見つめ、協働を通し、未来をデザインするワークショップを提案している。



菊宿俊文 [青山学院大学社会情報学部教授]

ワークショップに代表される協働的な学習を実践的に研究している。特に学校教育で展開されているアート系ワークショップの調査研究を行う。専門は学習コミュニティデザイン論、学習環境デザイン論、教育後学。リアルコミュニケーションツール「VITAMIN HAPPYピタハビ」「逆転時間ワークショップ」などでグッドデザイン賞やキッズデザイン賞受賞。著書「ワークショップと学び」[編][全3巻][東京大学出版会]など多数。



絹川友梨 [俳優/インプロ・ワークス株式会社代表]

即興演劇「インプロ」に出会い(1994)、インプロ・ワークスを設立[法人化、2009]芸術/教育/ビジネス/福祉の分野において、インプロの手法を用いてワークショップや講座などを国内外で行っている。主演映画「Memory and Desire」[日本未公開]でストックホルム国際映画祭主演女優賞/ニュージーランド・ベスト外国人パフォーマンス賞受賞[1996]。東京大学大学院博士課程前期所属。玉川大学非常勤講師、桜美林大学非常勤講師、桐朋学園短期大学非常勤講師。



児玉 真 [一般財団法人地域創造プロデューサー]

カザルスホールその他の会館で主催事業のプロデュースをするとともに、地域創造の公共ホール音楽活性化事業のチーフコーディネーターをつとめる。同時に全国各地で会館職員や演奏家のためのアウトリーチ講習なども行い普及につとめている。現在、地域創造プロデューサー、いわきアリオス・チーフプログラムオフィサー。



今野尚美 [上野学園大学准教授]

英国王立音楽院首席卒業、同大学院ディプロマ修了。パロマード国際室内楽コンクールなど受賞。ソロや室内楽の演奏活動と共に、ヤナーチェク・フィルハーモニー管、東京交響楽団など国内外の団体と多数協演。演連コンサート、都民芸術フェスティバル出演。公共ホール音楽活性化支援事業の登録アーティストとして全国各地でアウトリーチ活動を展開中。



坂倉 杏介 [東京都立大学都市生活学部准教授/三田の家LLP代表]

多様な主体の相互作用によってつながりと活動が生まれる「コミュニティ・プラットフォーム」という視点から、地域コミュニティの形成過程やワークショップの体験デザインを実践的に研究。「芝の家」や「ご近所イノベーション学校」の運営を通じて港区の地域づくりを進めるほか、様々な地域や組織のコミュニティ事業に携わる。慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科特任講師。



マイケル・スペンサー [ヴァイオリニスト/上野学園大学客員教授]

元ロンドン交響楽団ヴァイオリン奏者、元英国ロイヤル・オペラ・ハウス教育部長。世界各地で教育・地域・人材育成プログラムの開発・実践。映画『ピーターと狼』[2008年アカデミー賞短編アニメ部門受賞]教育ディレクター。日本でも15年前から、プロのオーケストラと教育プログラムを展開。2013年から上野学園大学にて「音楽ワークショップ・ファシリテーター養成講座」開講。日本フィルハーモニー交響楽団コミュニケーション・ディレクター。



瀧川 淳 [上野学園大学専任講師]

東京学芸大学大学院教育学研究科修了。東京藝術大学大学院音楽研究科音楽学専攻[領域:音楽教育]博士後期課程修了。学術博士。専門は音楽教育学ならびに教師教育。研究のテーマは反省的实践を援用した「音楽教師の専門性の解明」で授業研究や事例研究を行っている。上野学園大学のほか、非常勤として東京学芸大学や明星大学、東京家政学院大学の教科教育を担当する。



中山 晶世 [音楽療法士/上野学園大学短期大学部専任講師]

国立音楽大学教育音楽科卒業。筑波大学大学院修士課程修了。知的障害児、幼児、身体障害者の音楽療法を実践。共著「音楽療法士のためのABA入門」。日本音楽療法学会認定音楽療法士。



ベルナール・フォクルール [エクサン=プロヴァンス音楽祭芸術監督]

オルガニストとして70年代より活躍。ルネサンス音楽から現代作品まで幅広いレパートリーを持つ。様々なアートとの融合作品へ積極的に参画。2006年ブクステフーデのオルガン全曲録音で高評を得る。作曲家としても活動し、14年に自身の作品CDを発表。92年ベルギー国立歌劇場監督就任。93年、文化的生活への参加を呼び掛けるため「Culture and Democracy」設立。07年よりエクサン=プロヴァンス音楽祭芸術監督、現在に至る。著書「La naissance de l'individu dans l'art」。



三ツ木紀英 [認定 NPO 法人芸術資源開発機構代表理事]

アート・エドゥケーター、アート・プランナー。英国留学後、フリーやNPOの立場で美術施設だけでなく、街や保育園、児童館、学校、高齢者施設等で展覧会やワークショップを企画制作してきた。近年は対話型鑑賞ファシリテーターを育成することで、社会に埋もれているアートの種を掘り起こし中。



箕口一美 [上野学園大学音楽文化研究センター研究員]

コンサートホールにおける主催公演、コミュニティ・エンゲージメントの基本設計、企画・制作が専門。カザルスホール、第一生命ホール、サントリーホールで企画制作に携わる一方、クラシック音楽家とともにアウトリーチやワークショップなどを通じた活動の普及・推進に取り組み、地域密着アートNPOトリートメント・ネットワーク設立に参画。室内楽を中心に、音楽家、アーツセンター、音楽大学、音楽祭とのグローバル・ネットワークを活かしたプロジェクトも積極的に進めている。



吉野さつき [愛知大学文学部メディア芸術専攻准教授]

英国シティ大学大学院でアーツ・マネジメントを学ぶ。公共ホール勤務、英国での研修[文化庁派遣芸術家在外研修員]を経て、フリーランスのコーディネーターとして、教育、福祉などの現場でアーティストによるワークショップを数多く企画。アウトリーチ事業やワークショップの企画運営を担う人材育成にも各地で携わる。